



災害発生時における現場状況の早期確認及び対応のため

車両基地に緊急用自動二輪車を配備します

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）では、このたび、首都直下地震等の災害が発生した場合において、鉄道施設の現場状況等を機動的に情報収集し、関係部所への連絡体制を強化するため、車両基地に緊急用自動二輪車を計 10 台配備いたしました。

東京メトロでは、平成 24 年 12 月に緊急用自動二輪車 4 台を本社へ配備し、災害発生時には本社員が鉄道施設の被害状況の把握や要員派遣のための地上ルートの確認ができるように体制を整えております。

今回はさらに 4 つの車両基地に自動二輪車を配備することで、情報収集時間の短縮や情報収集エリアの拡大、情報収集量の増加などが可能となります。

今後も東日本大震災を教訓に首都直下地震等に備えた対策を推進し、お客様の安全・安心の確保と首都機能の早期回復に努めてまいります。

緊急用自動二輪車の詳細については以下の通りです。

- 1 車種 ヤマハ「SEROW250」（平成 24 年 12 月から本社で運用開始したものと同一仕様）
- 2 排気量 250cc
- 3 特徴 行政機関で導入実績がある車種であり、転倒時に運転者を守れるよう、各種装備を追加しています。また、ナビゲーションシステムを全車に搭載し、機動力を高めています。
- 4 新たに配備した場所
 - (1) 中野車両基地（東京都中野区）3 台
 - (2) 深川車両基地（東京都江東区）2 台
 - (3) 綾瀬車両基地（東京都足立区）3 台
 - (4) 鷺沼車両基地（神奈川県川崎市）2 台



〈車両基地に配備した緊急用自動二輪車〉